

# ファイアウォール(Brocade 5600 vRouter)からvSRXへの交換によるマイグレ実施方法

第1版



# 前提条件

---

# 前提条件

## ■ ファイアウォール(Brocade 5600 vRouter)(以下、vFW)からファイアウォール(vSRX)へのマイグレ実施方法です。

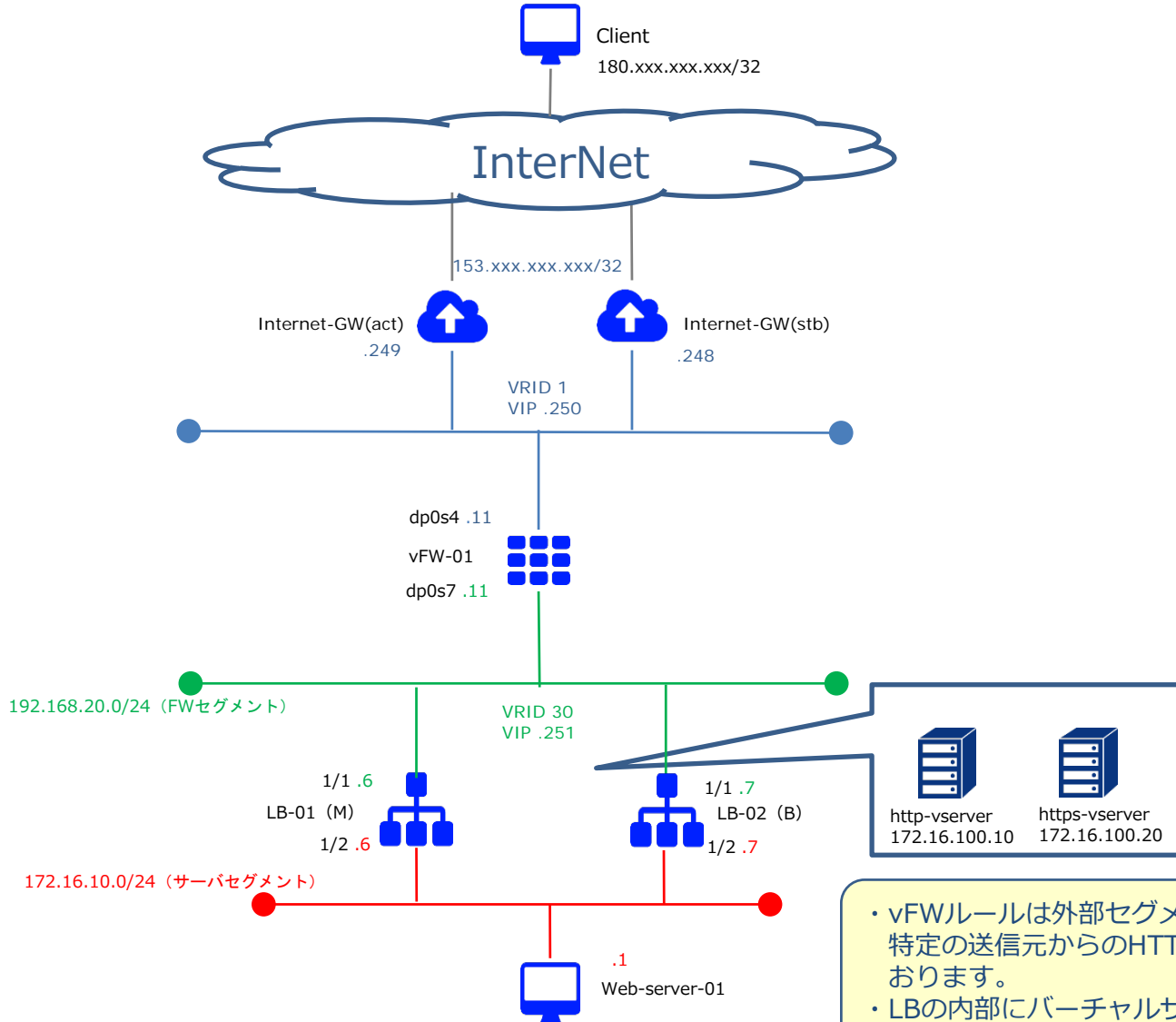
- ・ Internet-GW, ロードバランサー, Webサーバーの設定変更(Routing変更等)は発生しないケースです。
- ・ ロードバランサーは、ツーアーム構成のマイグレ実施方法です。ワンアーム構成をご利用の場合はお客様環境にそって、読み替えて頂きますようお願い致します。
- ・ vFWで利用しているネットワークをvSRXへ付け替えます。  
⇒ vFWで利用しているネットワークの接続解除から、vSRXへの付け替え完了まで、通信断が発生いたします。
- ・ vSRXの基本設定は下記リンクを参照頂けますよう、よろしくお願ひいたします。  
<https://ecl.ntt.com/documents/tutorials/rsts/vSRX/basic/basic.html>
- ・ ルーティング設定はお客様構成に応じて設定をお願い致します。
- ・ vSRX作成時、インターフェイス(ge-0/0/0.0)はTrustゾーンに設定されております。  
⇒作成後、各インターフェイスはお客様環境にそって読み替えて設定頂きますようお願い致します。
- ・ vFW/vSRX共に、ステートフルインスペクション機能を利用します。  
⇒ ステートレスファイアウォールをご利用の場合、お客様環境にそって読み替えて頂きますようお願い致します。

※事前検証を行ってから移行を実施ください。

# 構成および移行フロー

---

# 移行前構成 (vFW構成)



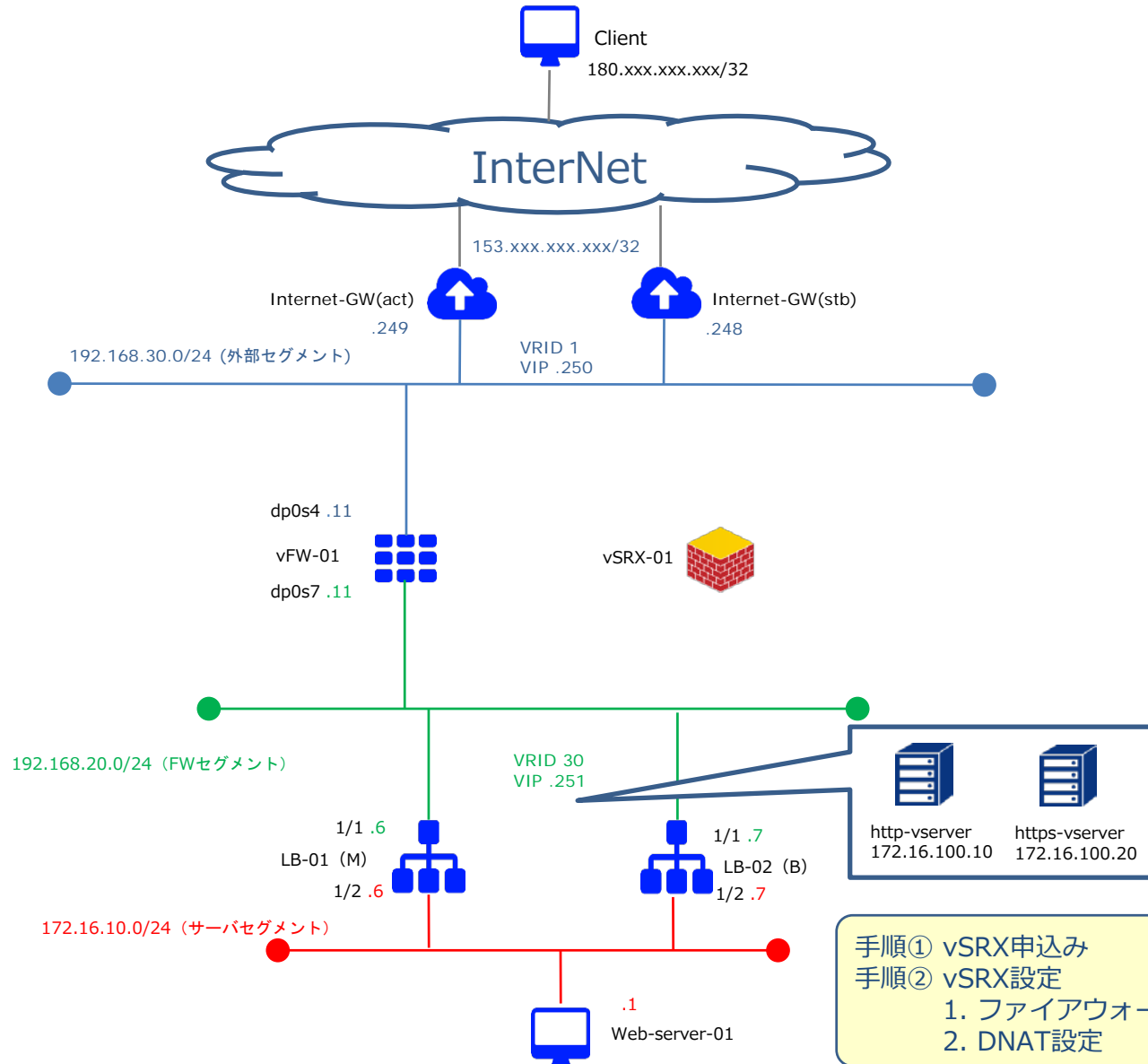
- vFWルールは外部セグメントからの通信は全て拒否し、特定の送信元からのHTTP/HTTPS通信のみ許可しております。
- LBの内部にバーチャルサーバーを設定しておきます。
- vFWの設定内容を次のページに記載致します。

# 移行前構成（vFW構成）設定値

## vFW-01 Firewall Filterの設定

```
set security firewall name From-Internet default-action 'drop'  
set security firewall name From-Internet rule 10 action 'accept'  
set security firewall name From-Internet rule 10 protocol 'tcp'  
set security firewall name From-Internet rule 10 source address '180.xxx.xxx.xxx/32'  
Set security firewall name From-Internet rule 10 destination port '80'  
Set security firewall name From-Internet rule 10 state 'enable'  
Set security firewall name From-Internet rule 20 action 'accept'  
Set security firewall name From-Internet rule 20 protocol 'tcp'  
Set security firewall name From-Internet rule 20 source address '180.xxx.xxx.xxx/32'  
set security firewall name From-Internet rule 20 destination port '443'  
set security firewall name From-Internet rule 20 state 'enable'  
set security firewall name From-Internet rule 30 action 'accept'  
set security firewall name From-Internet rule 30 protocol 'vrrp'  
set security firewall name From-Internet rule 30 state 'enable'  
set interface dataplane dp0s4 firewall in 'From-Internet'
```

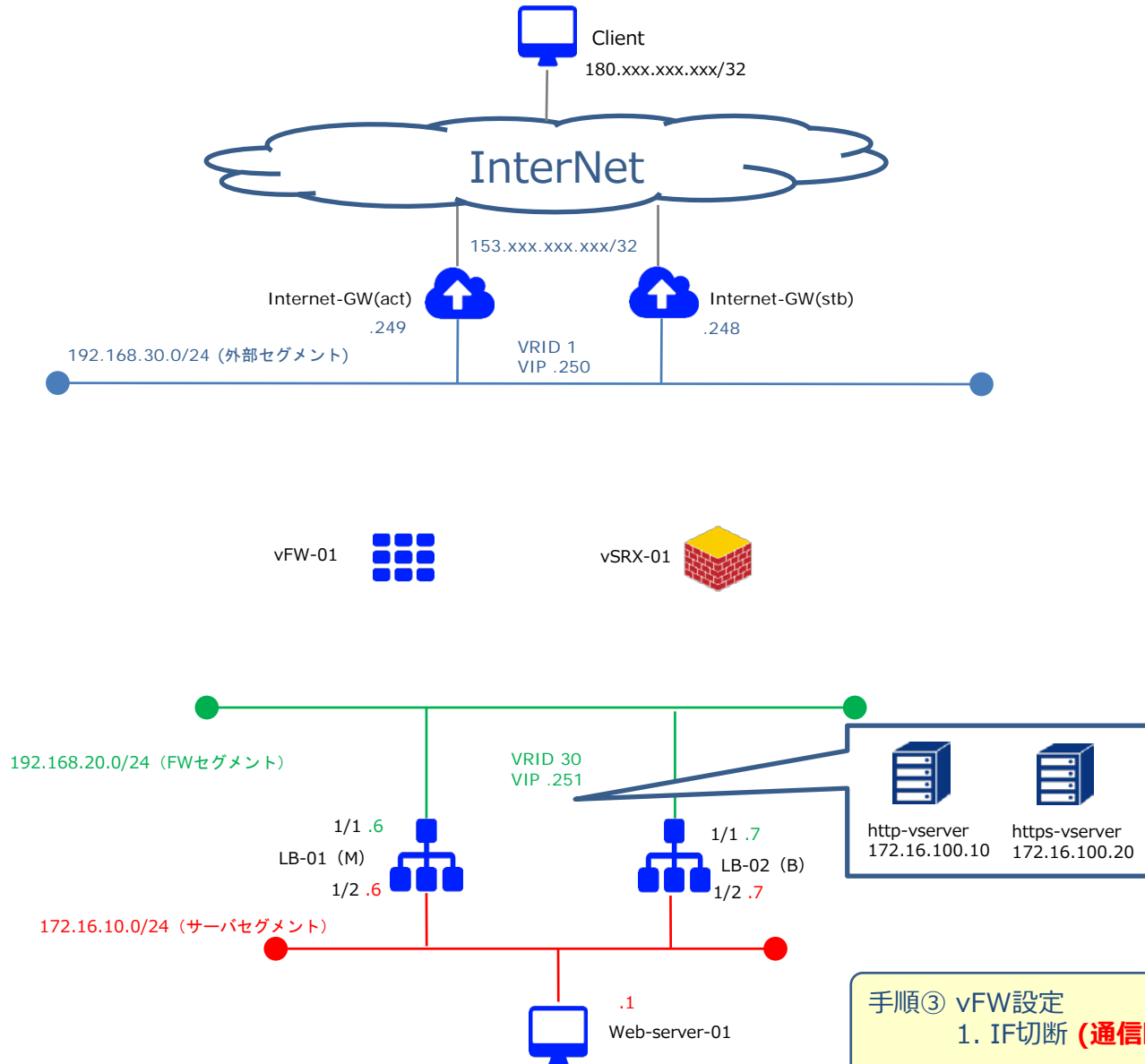
# 移行時構成①



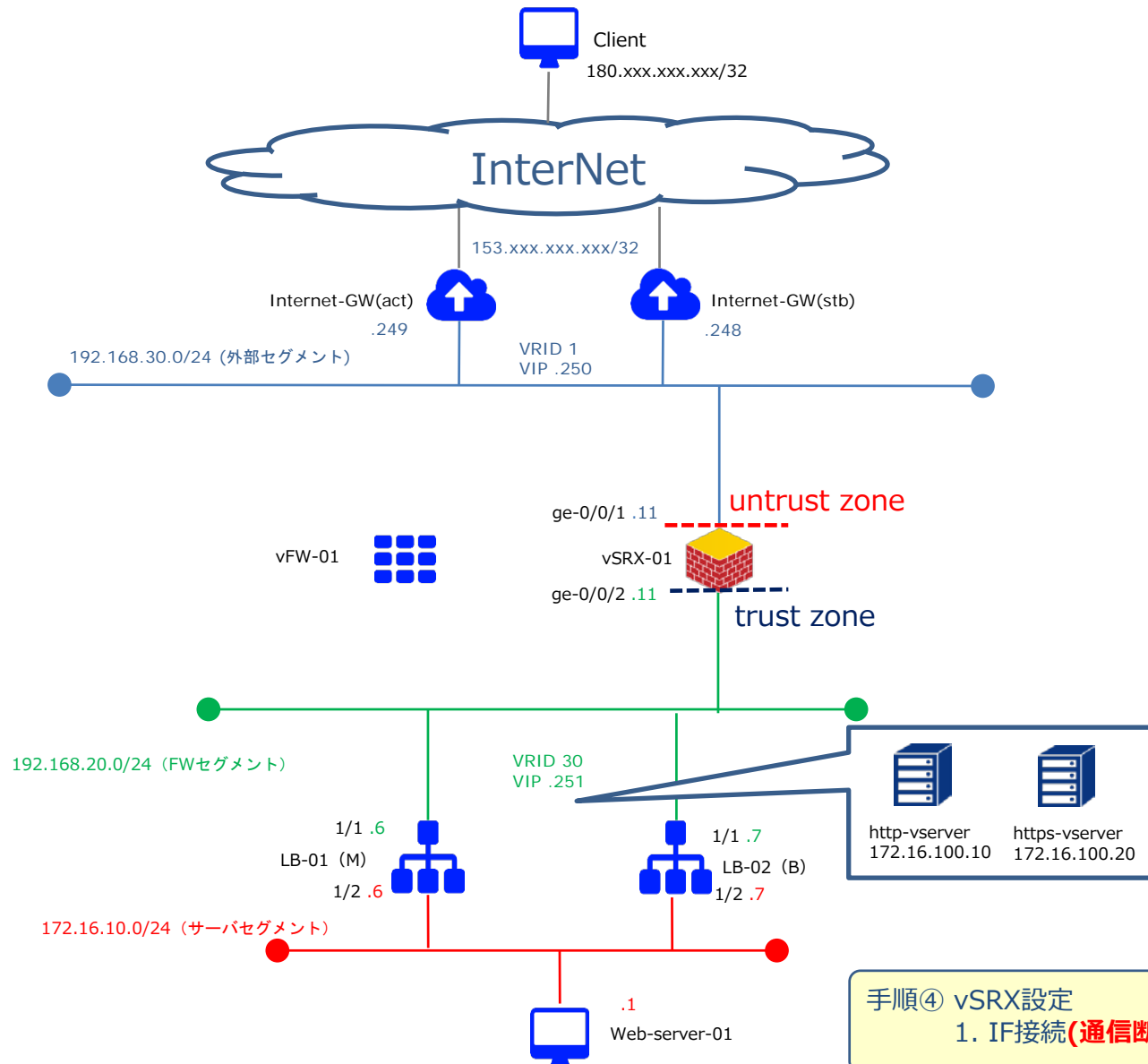
- 手順① vSRX申込み
- 手順② vSRX設定
  - 1. ファイアウォール設定
  - 2. DNAT設定



# 移行時構成②



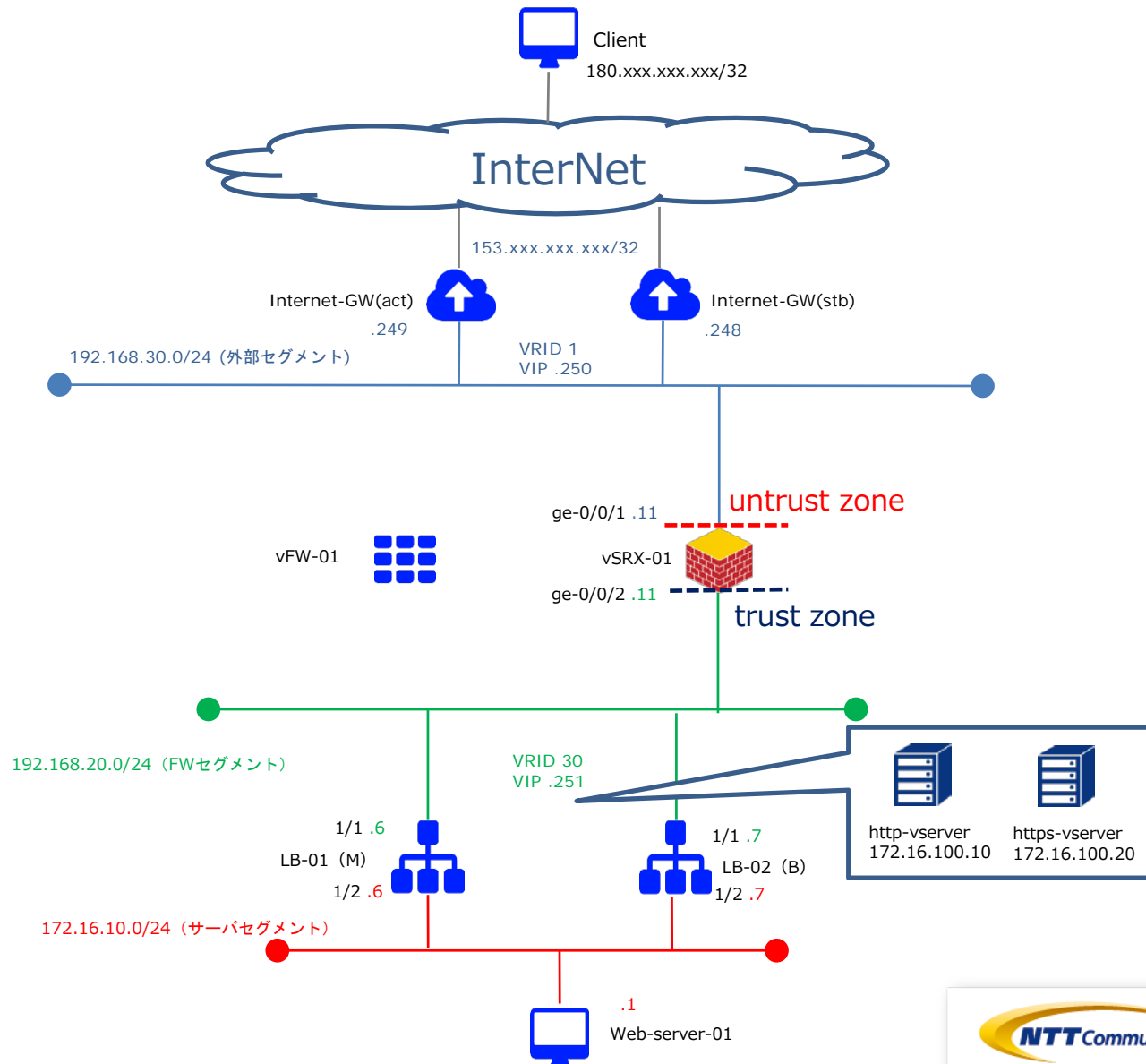
# 移行時構成③



断時間：50分程度  
(実測値)

手順④ vSRX設定  
1. IF接続(通信断回復)

# 移行完了構成



# 手順① vSRX申し込み

---

## 手順① vSRX申込み

下記リンクを参照の上、vSRXのお申し込みをお願いいたします。

<https://ecl.ntt.com/documents/tutorials/rsts/vSRX/instance/create.html>

コントロールパネル画面にログイン後、クラウドコンピューティングをクリックし、「ネットワーク」、「ファイアウォール」、「vSRX」をクリックしてください。



## 手順① vSRX申込み

ファイアウォール作成ボタンをクリックし、「詳細」と「インターフェイス」で必要な設定値を入力してください。

インターフェイス設定では管理用IPアドレスを入力してください。  
設定を入力後、「ファイアウォールの作成」をクリックしてください。



ファイアウォール (vSRX)

フィルター

+ファイアウォールの作成

ソーン/グループ ステータス 最終オペレーション状態 最終オペレーション詳細 アクション

名前 説明 ブラン



ファイアウォールの作成

詳細 インターフェイス

名前

説明

ファイアウォールプラン\*

ソーン/グループ

× 取り消し ファイアウォールの作成



ファイアウォールの作成

詳細 インターフェイス

インターフェイス名

ロジカルネットワーク\*

IPアドレス\*

デフォルトゲートウェイ

× 取り消し ファイアウォールの作成

# 手順②-1 vSRX設定 (ファイアーウォール設定)

---

## 手順②-1 vSRX設定 (ファイアウォール設定)

ゾーンベースファイアウォールの設定は下記をご覧ください。

[https://ecl.ntt.com/documents/tutorials/rsts/vSRX/fwfunction/zonebase/vsrx\\_zonebase.html](https://ecl.ntt.com/documents/tutorials/rsts/vSRX/fwfunction/zonebase/vsrx_zonebase.html)

ファイアウォールに論理的に「ゾーン」と呼ばれる領域を作成し、インターフェイスをゾーンに所属させます。

受信パケットに必要なポリシーをゾーンごとに設定するため、ゾーンに属するインターフェイスに対して同一のポリシーを適用させることが可能になります。

ゾーンベースファイアウォールを設定には、「アドレスグループの設定」、「アプリケーションセットの設定」が必要になります。



## 手順②-1 vSRX設定 (ファイアウォール設定)

下記URLを参考にアドレスグループの設定をお願い致します。

[https://ecl.ntt.com/documents/tutorials/rsts/vSRX/fwfunction/zonebase/vsrx\\_address-set.html](https://ecl.ntt.com/documents/tutorials/rsts/vSRX/fwfunction/zonebase/vsrx_address-set.html)

パケットフィルタリングを設定する時にIPアドレスを条件にしたルールを設定することができ、IPアドレスに簡易的な名称をつけてパケットフィルタリングの条件にすることが可能です。  
複数のIPアドレスをグループ化する場合、それぞれのIPアドレスに対してアドレスブックを作成し、複数のアドレスブックを含んだアドレスセットを作成して下さい。

参考までに、vSRX-01の設定値は以下の通りです。

```
user@vSRX-01# set security address-book global address CLIENT_01 180.xxx.xxx.xxx/32
user@vSRX-01# set security address-book global address-set CLIENT_GROUP address
CLIENT_01
user@vSRX-01# commit
```

## 手順②-1 vSRX設定 (ファイアウォール設定)

下記URLを参考にアプリケーションセットの設定をお願い致します。

[https://ecl.ntt.com/documents/tutorials/rsts/vSRX/fwfunction/zonebase/vsrx\\_application-set.html](https://ecl.ntt.com/documents/tutorials/rsts/vSRX/fwfunction/zonebase/vsrx_application-set.html)

vSRXにあらかじめ登録されているアプリケーションもしくは任意の名称をつけてアプリケーションを定義しパケットフィルタリングの条件にすることが可能です。

参考までに、vSRX-01の設定値は以下の通りです。

```
user@vSRX-01# set applications application HTTP_DEF protocol tcp destination-port 80
user@vSRX-01# set applications application HTTPS_DEF protocol tcp destination-port 443
user@vSRX-01# set applications application-set HTTP_HTTPS_DEF application HTTP_DEF
user@vSRX-01# set applications application-set HTTP_HTTPS_DEF application HTTPS_DEF
user@vSRX-01# commit
```

## 手順②-1 vSRX設定 (ファイアウォール設定)

作成したアドレスセットとアプリケーションセットを送信元とする通信(パケット)に関して許可して、それ以外の通信(パケット)はゾーンベースファイアウォールで遮断する設定を行います。

外部セグメントからの通信は全て拒否し、特定の送信元(180.xxx.xxx.xxx/32)からのHTTP/HTTPS通信のみ許可する設定は、下記になります。

```
user@vSRX-01# set security policies from-zone untrust to-zone trust policy PERMIT_GROUP match source-address CLIENT_GROUP
user@vSRX-01# set security policies from-zone untrust to-zone trust policy PERMIT_GROUP match destination-address any
user@vSRX-01# set security policies from-zone untrust to-zone trust policy PERMIT_GROUP match application HTTP_HTTPS_DEF
user@vSRX-01# set security policies from-zone untrust to-zone trust policy PERMIT_GROUP then permit
user@vSRX-01# commit
```

# 手順②-2 vSRX設定 (DNAT設定)

---

## 手順②-2 vSRX設定 (DNAT設定)

Destination NATの設定は下記をご覧ください。

<https://ecl.ntt.com/documents/tutorials/rsts/vSRX/network/nat/nat.html>

CLIでログイン後、

シェルコマンドモード > オペレーションモード > コンフィグレーションモードへ移行します。

宛先が153.xxx.xxx.xxx/32のHTTP/HTTPS通信をロードバランサーのVirtual Serverに変換致します。

参考までに、vSRX-01の設定値を次ページに記載します。

## 手順②-2 vSRX設定 (DNAT設定)

ロードバランサーのVirtual Serverへアクセスする為のIPアドレス変換設定は、下記になります。

```
user@vSRX-01# set security nat destination pool POOL1 address 172.16.100.10/24 port 80
user@vSRX-01# set security nat destination pool POOL2 address 172.16.100.20/24 port 443
user@vSRX-01# set security nat destination rule-set RULE1 from zone untrust
user@vSRX-01# set security nat destination rule-set RULE1 rule RULE1-1 match destination-address
153.xxx.xxx.xxx/32
user@vSRX-01# set security nat destination rule-set RULE1 rule RULE1-1 match destination-port 80
user@vSRX-01# set security nat destination rule-set RULE1 rule RULE1-1 then destination-nat pool POOL1
user@vSRX-01# set security nat destination rule-set RULE1 rule RULE1-2 match destination-address
153.xxx.xxx.xxx/32
user@vSRX-01# set security nat destination rule-set RULE1 rule RULE1-2 match destination-port 443
user@vSRX-01# set security nat destination rule-set RULE1 rule RULE1-2 then destination-nat pool POOL2
user@vSRX-01# commit
```

# 手順③ vFW設定 (インターフェースの切断)

---

## 手順③ vFWの設定 (インターフェースの切断)

ファイアウォールのロジカルネットワーク切断をお願いいたします。  
コントロールパネル画面にログイン後、「ネットワーク」、「Brocade 5600 vRouter」をクリックし、対象のファイアウォールを選択ください。

The screenshot shows the control panel interface for the Brocade 5600 vRouter. On the left is a navigation menu with the following items: ネットワーク, インターネット接続, VPN接続, ロジカルネットワーク, **ファイアウォール**, vSRX, Brocade 5600 vRouter (highlighted with a red box), マネージドファイアウォール, and ロードバランサー. The main content area is titled 'ファイアウォール' and displays a table of firewall configurations. The table has three columns: '名前' (Name), '説明' (Description), and 'ファイ' (Firewall). The table lists three entries: 'MGMT-FW', 'vFW-01', and 'vFW-02', each with a checkbox in the '名前' column and 'Broca' in the 'ファイ' column. Below the table, it indicates '3 件表示' (3 items displayed).

<input type="checkbox"/>	名前	説明	ファイ
<input type="checkbox"/>	MGMT-FW		Broca
<input type="checkbox"/>	vFW-01		Broca
<input type="checkbox"/>	vFW-02		Broca



## 手順③ vFWの設定 (インターフェースの切断)

対象のインターフェースから、「ロジカルネットワークの切断」をクリック。

概要		ファイアウォールインターフェイス						
名前	説明	スロット番号	ロジカルネットワーク	IP アドレス	仮想IPアドレス	Enterprise Cloud 2.0 接続	ステータス	アクション
dp0s4	-	1	69093a73-1386-41df-acff-792d102ed9b8	192.168.30.11	-	-	稼働中	ファイアウォールインターフェイスの編集 ロジカルネットワークの接続 <b>ロジカルネットワークの切断</b> VRRP用通信設定の登録 VRRP用通信設定の解除
dp0s5	-	2	07295beb-da13-44b7-9358-2cfb3335afe02	10.0.0.11	-	-	稼働中	ファイアウォールインターフェイスの編集
dp0s6	-	3	-	-	-	-	停止中	ファイアウォールインターフェイスの編集
dp0s7	-	4	6200b5fb-0391-4263-86e8-5bb0bda7f0c3	192.168.20.11	-	-	稼働中	ファイアウォールインターフェイスの編集

「ロジカルネットワークの切断」をクリック。**通信断が発生します。**

### ロジカルネットワークの切断

ロジカルネットワーク\*

Internet-seg (192.168.30.0/24)

IP アドレス

192.168.30.11

**説明:**

ファイアウォールからロジカルネットワークを切断します。

ロジカルネットワークの切断には、再起動が実施されますので、処理が完了するまで10分程度かかる場合がございます。

# 手順④ vSRX設定 (インターフェース設定)

---

## 手順④ vSRX設定 (インターフェース設定)

vSRXに設定するインターフェースに対してIPアドレスを設定し通信可能にするためには、ECL2.0のカスタマポータル上でインターフェースとIPアドレスの設定を実行する必要があります。

vSRXに設定するIPアドレスはvFWで使用していたIPアドレスを設定して下さい。

vSRXのインターフェースはge-0/0/0を除き初期状態でゾーンに所属させる設定がされておられません。通信するためには必ずゾーンベースファイアウォールのいずれかのゾーンに所属させる必要があります。

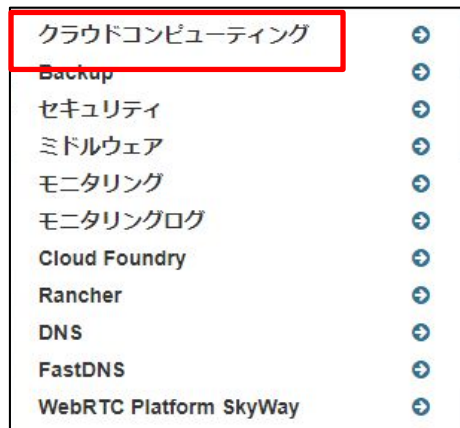
インターフェースのIPアドレスに着信する通信を許可するためにはhost-inbound-traffic配下で該当の通信を許可する設定が必要になります。

## 手順④ vSRX設定 (インターフェース設定)

下記リンクを参照の上、ECL2.0のカスタマポータル上でvSRXのインターフェース設定をお願いいたします。

<https://ecl.ntt.com/documents/tutorials/rsts/vSRX/instance/update.html>

コントロールパネル画面にログイン後、クラウドコンピューティングをクリックし、「ネットワーク」、「ファイアウォール」、「vSRX」をクリックしてください。



## 手順④ vSRX設定 (インターフェース設定)

対象のvSRXで「ファイアウォールインターフェースの編集」をクリックして下さい。

The screenshot displays a configuration page for vSRX instances. A table lists several instances, with the first one selected. A dropdown menu is open, showing various actions for the selected instance's firewall interface.

vSRX-	vSRX_	zone	モニタリングステータス:	ログインステータス:	仮想サーバステータス:	ファイアウォールの編集
<input type="checkbox"/> 01	vSRX_15.1X49-D105.1_2CPU_4GB_8IF_STD	zone1_groupb	ACTIVE	完了	ACTIVE	ファイアウォールインターフェースの編集

2件表示

- 許可されたアドレスペアの編集
- パスワードのリセット
- ファイアウォールの起動
- ファイアウォールの停止
- ファイアウォールの再起動
- コンソール
- ファイアウォールの削除

NTT Communications All Rights Reserved.

## 手順④ vSRX設定 (インターフェース設定)

編集したいインターフェースタブを開き、「このインターフェースを編集する」にチェックを入れ、接続先ロジカルネットワークと固定IPアドレスを指定して下さい。  
設定値を入力後、「ファイアウォールインターフェースの編集」をクリックして下さい。

「このインターフェースを編集する」に必ずチェックを入れてください。チェックを入れない場合、編集は反映されません。

参考までに、以下はvSRX-01の設定値となります。

ファイアウォールインターフェースの編集

インターフェース1 インターフェース2 インターフェース3 インターフェース4  
インターフェース5 インターフェース6 インターフェース7 インターフェース8

このインターフェースを編集する  
ロジカルネットワーク\*

Internet-seg:(192.168.30.0/24)

固定IPアドレス\*

192.168.30.11

ファイアウォールのインターフェースを編集するための情報を指定します。この画面では、接続ロジカルネットワークおよび固定IPアドレスの編集が可能です。

× 取り消し ファイアウォールインターフェースの編集

ファイアウォールインターフェースの編集

インターフェース1 インターフェース2 インターフェース3 インターフェース4  
インターフェース5 インターフェース6 インターフェース7 インターフェース8

このインターフェースを編集する  
ロジカルネットワーク\*

FW-seg:(192.168.20.0/24)

固定IPアドレス\*

192.168.20.11

ファイアウォールのインターフェースを編集するための情報を指定します。この画面では、接続ロジカルネットワークおよび固定IPアドレスの編集が可能です。

× 取り消し ファイアウォールインターフェースの編集

## 手順④ vSRX設定 (インターフェース設定)

下記リンクを参照の上、CLIでvSRXのインターフェース設定をお願いいたします。

<https://ecl.ntt.com/documents/tutorials/rsts/vSRX/basic/basic.html#vsrx-cli-ssh>

CLIでログイン後、

シェルコマンドモード > オペレーションモード > コンフィグレーションモードへ移行して下さい。

参考までに、CLIにて入力するコマンドは下記となります。

※ 本検証では、host-inbound-traffic 設定にて ping を許可しております。

追加で許可するサービスやプロトコルがある場合は、下記リンクを参照の上、ご利用の環境で必要に応じて設定をお願い致します。

[https://ecl.ntt.com/documents/tutorials/rsts/vSRX/fwfunction/zonebase/vsrx\\_zoneconfig.html](https://ecl.ntt.com/documents/tutorials/rsts/vSRX/fwfunction/zonebase/vsrx_zoneconfig.html)

```
user@vSRX-01# set interfaces ge-0/0/1 unit 0 family inet address 192.168.30.11/24
user@vSRX-01# set security zones security-zone untrust interfaces ge-0/0/1.0 host-inbound-traffic system-services ping
user@vSRX-01# set interfaces ge-0/0/2 unit 0 family inet address 192.168.20.11/24
user@vSRX-01# set security zones security-zone trust interfaces ge-0/0/2.0 host-inbound-traffic system-services ping
user@vSRX-01# commit
```

インターフェース設定が完了すると、**通信が回復します。**